

2024年4月新設
理学療法学専攻・臨床検査学専攻

2024年4月、健康医療科学部 医療貢献学科に、理学療法士を養成する「理学療法学専攻」と、臨床検査技師を養成する「臨床検査学専攻」を新たに設置しました。専門的な知識・技能はもちろん、幅広い教養や人間的素養を身につけた人材を育て、地域社会へのさらなる貢献をめざします。

健康医療科学部
医療貢献学科

理学療法学専攻

小児から高齢者まで全世代を支え、
健康長寿社会に貢献できる
理学療法士を育てます。

理学療法学専攻では、小児の発達支援から、生産年齢といわれる世代の健康的な身体づくり、高齢者の身体機能の維持まで、全世代の人を支える理学療法士の養成をめざしています。近年、理学療法士が専門性を発揮するフィールドは、大きく広がっています。チーム医療におけるリハビリテーション専門職として多職種と連携することはもちろん、高齢者施設、在宅（地域）、行政機関など多様な現場での活躍が期待されています。

こうした社会的ニーズに応えられるよう本専攻は、地域医療・福祉に貢献してきた大学の既存学科・専攻や愛知淑徳大学クリニック、地域の医療機関などとの連携を強めながら教育を展開していきます。たとえば1年次には愛知淑徳大学クリニック、研究施設を併設する医療機関や人材育成も行う地域医療センター、通所介護施設などでの「見学実習」を行い、理学療法士の幅広い職務について早期から理解を深めます。

また、本専攻の特色の一つとして、子どもの特性に合わせた運動機能の向上や発達支援などの小児理学療法のカリキュラムを充実させています。1年次の「コミュニケーション実習」で小児領域の対象者と直接ふれあうなど、実践力を高める学びに力を入れていきます。

学生の皆さん、教員が丸となつて応援しますので、学業をはじめクラブ活動、ボランティア活動など多くのことに挑戦してください。その一つ一つの経験が将来、理学療法士として働く上で力になると信じています。



理学療法学専攻主任

林 久恵 教授

理学療法士、博士（リハビリテーション療法学）
「専門分野：末梢動脈疾患、糖尿病足病変」

理学療法学専攻の特色

01 特色

全世代に対応できる
理学療法の実践力を養成。

子どもの発達を支える小児理学療法や、全世代を対象とする地域理学療法教育に力を入れ、地域の多様なニーズに応える理学療法士を養成します。

02 特色

多職種連携の視点と
問題解決力を身につける。

チーム医療や多職種連携における理学療法の専門性と在り方を学修。理学療法士が地域の医療・介護・福祉施設で活動する意義や具体的な実践方法を学びます。

03 特色

幅広い現場で専門性を
発揮できる理学療法士へ。

理学療法士国家試験の合格を見据え、1年次から対策を実施。卒業後は、医療機関や介護福祉施設、企業の研究開発部門など、多彩な領域での活躍を想定しています。

施設・設備

長久手キャンパス13号棟2階の専用フロアには、理学療法を実践的に学べるよう、医療・介護・福祉の現場と同等の施設・設備を充実させています。



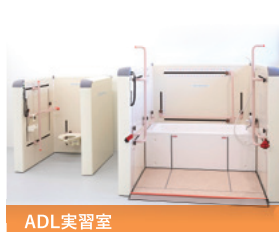
理学療法治療学実習室



運動学実習室



生体機能評価室



ADL実習室

最新の医学と臨床検査の
知識・技術を学び続け、社会に広く
貢献できる臨床検査技師を養成します。

医療の現場では医師の働き方改革にともない、多職種間でのタスクシフト・シェアが進められ、臨床検査技師に求められる業務の幅も広がっています。臨床検査学専攻では、これからの医療における臨床検査技師の多様な活躍を見据え、科学、基礎医学、臨床病態学、病氣予防のための先制医療検査学などを幅広く学びます。学生が最新の医学知識と検査技術を修得し、地域医療に貢献していけるように、愛知淑徳大学クリニックや健康医療科学部の他専攻との連携を図りながらよりよい教育を実現していきます。

病気の診断に臨床検査はなくてはならないものであり、今後も医学の進歩と共に新たな測定法が開発されていくでしょう。臨床検査技師をめざす学生には、ぜひ能動的に4年間の学修に取り組んでほしいと期待します。生命に関する領域には、解明されていないことがまだまだ数多くあります。そうした現象を自分の目で見て、考察を深めていく研究に、3年次からゼミで

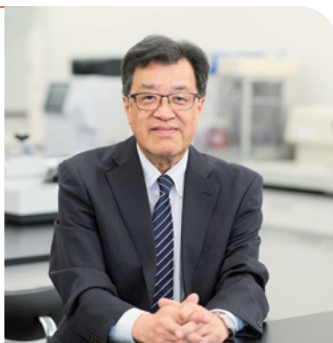
取り組みます。その経験が、臨床検査技師になってからも探究心を持って学び続ける力になると考えています。

本学の理念「違いを共に生きる」のもと、学生の皆さんはコミュニケーション力を高めて、仲間と互いの個性を認め合い、共に学ぶことを大切にしてください。学び合いから人への礼儀や思いやりの心を育み、医療人へと歩んでいってほしいと願っています。私たち教員は、学生一人ひとりと向き合い、成長を後押ししていきます。

臨床検査学専攻主任

秋山 秀彦 教授

臨床検査技師 博士(医学)
〔専門分野・血液学〕



臨床検査学専攻の特色

特色

01

他専攻と学び合い、
多職種連携能力を養成。

健康医療科学部の他専攻学生と小グループでおこなう学修を通して、チーム医療に不可欠な多職種連携能力や医療人としての倫理観を養います。

特色

02

先制医療をはじめ
ニーズが高まる医療を学ぶ。

組織や臓器の再生、遺伝情報の活用といった先制医療に用いられる検査技術を学び、在宅医療・予防医療・個別化医療に活かす力を身につけます。

特色

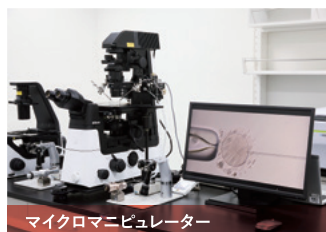
03

臨床検査技師の専門性を
多様な分野で活かす。

病院や在宅でのチーム医療、臨床検査センターなどでの予防医療、医療分野の研究・開発など、多様な進路を見据えて専門性や探究心、問題解決力などを養います。

機器・設備

長久手キャンパス13号棟3階の専用フロアには、検査技術を実践的に修得できるよう、医療の現場と同等の検査機器・設備を充実させています。



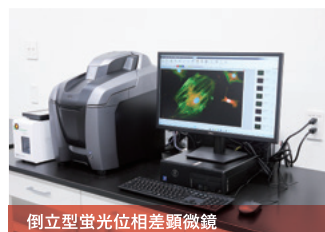
マイクロマニピュレーター



超音波診断装置



全自動生化学測定システム



倒立型蛍光位相差顕微鏡